

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	(社福)ライフサポート協会 障がい児余暇支援センターじらふ長居		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 1日		～ 2025年 3月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2025年 3月 11日		～ 2025年 3月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	環境・体制整備	写真を活用し、視覚的にわかりやすい環境設定を行っている。 清掃が行き届いており、清潔で快適な空間を提供している。 スタッフの配置が適切であり、十分な支援体制が整っている。	子ども一人ひとりの動線をより考慮したレイアウトの見直し。 定期的な設備点検を行い、安全で快適な環境を維持する。
2	専門的かつ具体的な支援の提供	子どもたちが意欲的に取り組める活動を工夫して実施している。 課題の共有と目標設定を一緒に行うことで、個々の成長を促している。 多様なプログラムを提供し、子どもが飽きることなく取り組める環境を整えている。	個々の子どもの特性や強みを活かした支援を実施。 支援内容をより分かりやすく伝えるための工夫を進めている。
3	保護者への説明・支援	個別面談や保護者同士の交流機会を提供し、保護者の相談に対応している。 オンラインを活用し、保護者が気軽に相談できる体制を整えている。 定期的に研修や交流会を開催し、保護者への情報提供を充実させている。	事前にメッセージで相談できる体制を活用し、より充実した支援を提供。 研修会や交流会の開催頻度を増やし、保護者との情報共有をさらに促進。 兄弟向けのイベントの周知を強化し、参加機会を広げる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	一部の保護者は、研修や交流会への参加経験がなく、情報共有が十分でないと感じている。	情報発信後に確認していただいている方と未確認の方もおられるため、全員に均等に伝わっていない可能性がある。(お知らせの過去の通知がうずもれてしまうなど)	告知のタイミングや頻度についても検討する。
2	非常時の訓練や対応について、実施状況が明確に伝わっていない点がある。	緊急時の対応について、メッセージとデータで周知している為、保護者への周知方法が十分でない。(確認していただいている方と、未確認の方がおられる) 実施後の報告を行っていない。	非常時の対応について、SNSを活用し定期的な情報共有を強化。
3	子どもへのプログラム説明が分かりにくいと感じるという意見がある	プログラムの内容によっては、スタッフの説明が長くなり、子どもが利害できていない状況がある。	子どもへのプログラム説明の工夫(視覚的なツールなど) スタッフで事前にロールプレイを実施しスムーズなプログラム進行を行える工夫をする。